

母親は家庭にいるべきである>に対しては、《肯定派》は男性84.0%、女性84.1%となっています。このように「神話」の影響はまだまだ強いといえます。したがって、このような意識とそれにもとづく慣習と制度を改革するためにも、子育てを社会全体の問題として共有する視点が、今後あらゆる行政施策に盛り込まれることが必要となっています。

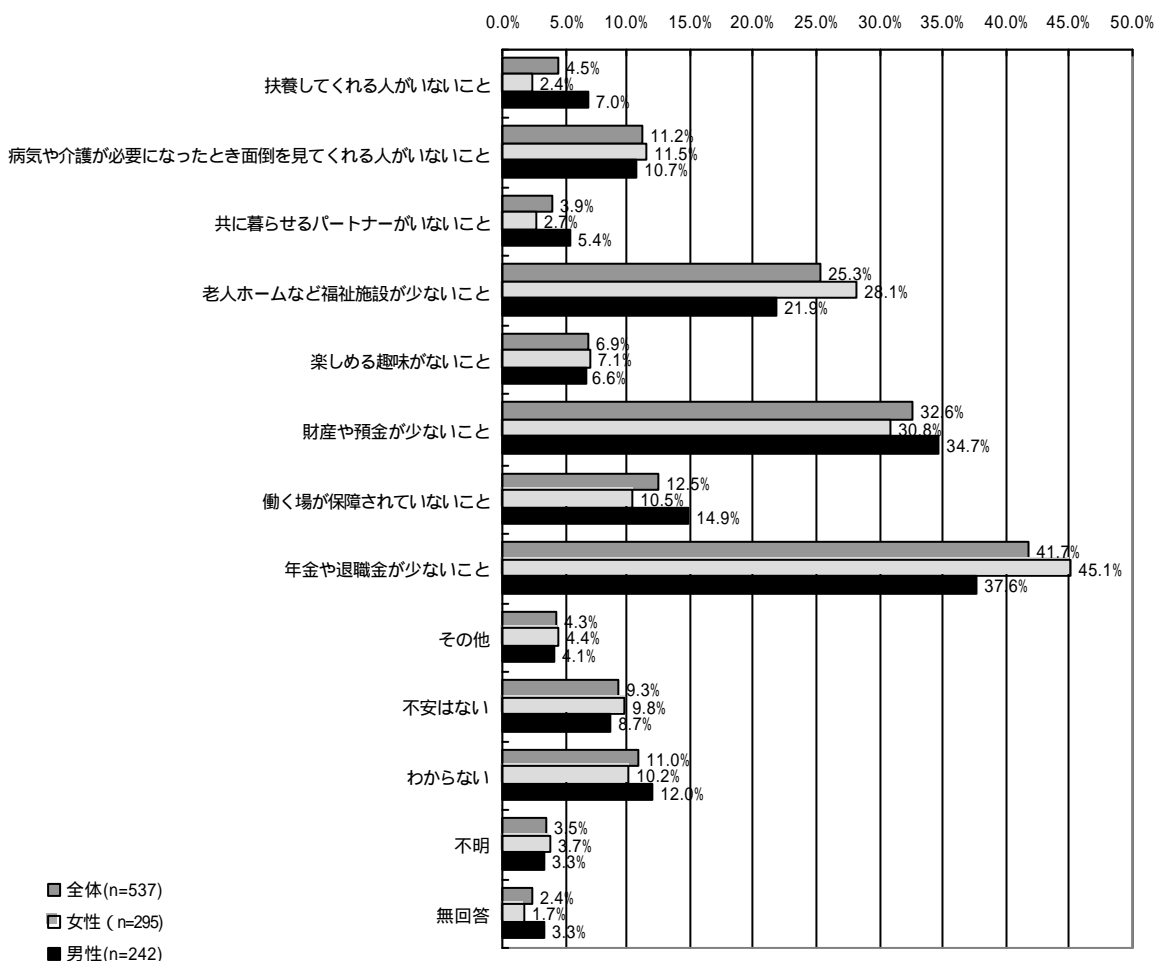
4 老後の生活と介護について

このセクションでは、老後の生活や介護に対する意向の把握を目的として、老後の生活への不安（問7）と自分の介護を希望する相手（問8）についてたずねます。

< 分 析 >

4 - 1 老後の生活への不安（問7）

老後の生活不安(2つまでの複数回答)



全体としては1位「年金や退職金が少ないこと(41.7%)」、2位「財産や預金が少ないこと(32.6%)」と経済的不安が大きく、ついで3位「老人ホームなど福祉施設が少ないこと(25.3%)」が老後生活の不安になっています。この3項目はどの年代・性別でも上位にあげられています。ついで4位に「働く場が保障されていないこと」があげられています。特に50代男性ではこの不安が最も大きくなっています(34.1%)。この年代は最近の労働市場の厳しい状況もあり、働く場の確保という問題を切迫したものとしていることが読み取れます。

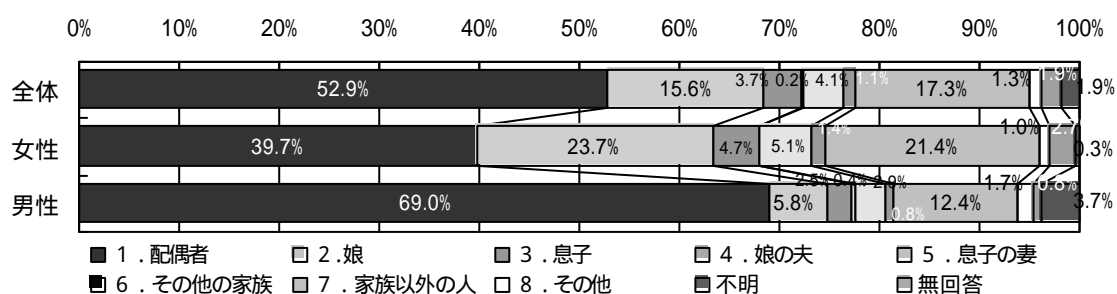
また、性別でみると、経済的不安感に関しては、1位と2位をあわせると女性(75.9%)は男性(72.3%)よりも強く感じていることがわかります。一方、「扶養してくれる人がいないこと」「共に暮らせるパートナーがいないこと」などでは、男性の方が強く不安を感じています。

【老後の生活不安(2つまでの複数回答)(性・年代別)】 (%)

	N	ないこと	扶養してくれる人がいないこと	病気や介護が必要になったとき面倒を見てくれる人がいないこと	共に暮らせるパートナーがいないこと	老人ホームなど福祉施設が少ないこと	と	楽しめる趣味がないこと	と	財産や預金が少ないこと	働く場が保障されていないこと	年金や退職金が少ないこと	その他	不安はない	わからない	不明	無回答
全体	537	4.5	11.2	3.9	25.3	6.9	32.6	12.5	41.7	4.3	9.3	11.0	3.5	2.4			
女性	295	2.4	11.5	2.7	28.1	7.1	30.8	10.5	45.1	4.4	9.8	10.2	3.7	1.7			
20代	36	0.0	11.1	8.3	13.9	2.8	36.1	16.7	52.8	2.8	5.6	5.6	8.3	2.8			
30代	44	2.3	13.6	2.3	22.7	2.3	34.1	22.7	54.5	0.0	6.8	13.6	0.0	0.0			
40代	55	3.6	12.7	0.0	25.5	12.7	41.8	20.0	40.0	5.5	5.5	1.8	7.3	0.0			
50代	50	4.0	10.0	0.0	30.0	6.0	24.0	8.0	58.0	4.0	6.0	14.0	0.0	2.0			
60代	58	1.7	12.1	3.4	41.4	6.9	24.1	0.0	46.6	5.2	8.6	12.1	3.4	0.0			
70代	52	1.9	9.6	3.8	28.8	9.6	26.9	0.0	23.1	7.7	25.0	13.5	3.8	5.8			
男性	242	7.0	10.7	5.4	21.9	6.6	34.7	14.9	37.6	4.1	8.7	12.0	3.3	3.3			
20代	30	6.7	6.7	6.7	3.3	10.0	33.3	20.0	40.0	6.7	6.7	26.7	3.3	0.0			
30代	30	0.0	13.3	3.3	20.0	6.7	40.0	23.3	53.3	6.7	3.3	6.7	0.0	6.7			
40代	39	15.4	10.3	10.3	17.9	5.1	38.5	10.3	35.9	2.6	7.7	2.6	7.7	2.6			
50代	44	9.1	13.6	6.8	18.2	9.1	25.0	34.1	31.8	6.8	2.3	11.4	4.5	2.3			
60代	45	4.4	15.6	6.7	40.0	6.7	42.2	6.7	48.9	0.0	2.2	11.1	0.0	2.2			
70代	54	5.6	5.6	0.0	24.1	3.7	31.5	1.9	24.1	3.7	24.1	14.8	3.7	5.6			

4 - 2 自分の介護を希望する相手(問8)

あなたが介護が必要なときは、どなたにお世話してほしいと思いますか。



女性は「配偶者（39.7%）」、「娘（23.7%）」、「家族以外の人（21.4%）」となっていますが、男性は「配偶者（69.0%）」、「家族以外の人（12.4%）」、「娘（5.8%）」となっています。性別にかかわらず「配偶者」への期待は最も大きくなっていますが、およそ7割の男性が「配偶者」に介護を求めているのに対し、女性は4割弱にとどまっています。

しかし、20代女性だけは「娘」「家族以外」「配偶者」の順になっており、「配偶者」への期待は低いことがわかります。また、女性は23.7%が「娘」に介護の期待をしているのに比べて、男性は「娘」よりも「家族以外の人」に介護を求めています。女性では「娘」と「家族以外の人」に対する期待がほぼ同率になっており、男女ともに行政等への介護サービスの充実を求めていることがうかがえます。

群馬県の「男女共同参画社会に関する県民意識調査」（平成11年）では、女性の「配偶者」への期待は玉村町よりも低く（県は「配偶者（33.7%）」）になっているのに対し、「娘」への期待では玉村町の方が低い傾向がみられます（県は「娘（31.1%）」）。

<まとめ>

老後への不安は経済的な問題（年金・退職金、財産・預金）が大きく、ついで老人福祉施設の不足となっています。これらの不安は特に男性よりも女性で大きくなっています。しかし、「働く場の保障」や「パートナーの不在」では男性の方が強く不安を感じています。経済力の弱い女性が社会的支援を強く求める傾向や、仕事の責任を強く感じる男性の不安感といった、社会の性別役割分業体制を背景とした不安の相違がみられます。

また、介護問題には、性別によって大きな相違があります。男性の7割は介護を妻に求めるのに対し、女性が夫にもとめる割合は4割弱でした。これは「人の生活面の世話をするのは女性」という性別役割の意識があり、男性は妻である「女性」に当然に求めることができるけれど、女性は「男性」である夫には求めない傾向がよみとれます。また、こういった男性からの介護要求によって、女性の多様な生き方が制限されているとしたら、それは考え直されなければならない問題でしょう。県の高齢福祉課（当時）の「平成7年度在宅老人基礎調査」によれば、<主たる介護者>は女性が80.1%（息子の配偶者36.5%、妻24.4%、娘17.4%、孫の配偶者0.5%）で、男性は19.3%でした。実際の介護負担の多くを女性が背負っているといえるのではないのでしょうか。

これからさらに進む高齢社会においては、介護は社会全体で担わなければならない問題です。女性にその負担の多くを求める意識は、行政の様々な施策を充実させる中で、介護の社会化を進めることによってあらためられることが必要でしょう。また実際に、男女ともに「家族以外」への介護を求める声も大きいことから、これらに応えるための行政による施設・サービスの充実は今後の重要な課題です。